

トラブル／原因と対処法

気泡が出てきた 材料の水分が下地に吸収される時に、下地が含んでいた空気が押し上げられることで起きます。

- 原因** …… ● 空気を含んでいる下地に対するシーラー処理や水打ち処理が不十分な場合
- 追っかけ2度塗りの1回目の塗りのしごき塗りが不十分な場合
 - 追っかけ2度塗りの2回目の上塗りのタイミングが遅すぎた場合

処理 …… 仕上げ後、気泡が出てきた場合は、仕上材に粘つきがなくなる状態まで乾燥が進んだときにプラスチックゴテで軽く押さえてください。プラスチックゴテが使えない仕上げ風合いの場合は、爪の面で軽く叩きながら気泡のふくらみを押さえてください。なお、大きな気泡の場合は、上記の処理を施しても穴が開いた状態となり、部分補修して目立つようであれば全面塗り替えが必要となります(全面塗り替え→31ページ参照)。

ボードジョイント部等のクラック(ヒビ割れ) ほとんどが下地の動きで起きます。

- 原因** …… ● 構造材に未乾燥木材を使用した新築家屋に施工した場合(木材の収縮や反り)
- 間柱のみ(胴縁なし)の壁下地に施工した場合
 - GLボンドでプラスターボードや合板が貼られている壁に施工した場合
 - ビス留めの間隔が広い場合や、くぎやタッカーで留めている下地に施工した場合
 - 鋼製下地の壁に施工した場合(伸縮によるたわみや振動)
 - 軟弱な地盤の上に建てられた家屋(不同沈下による建物のゆがみ)
 - 脆弱な躯体の建物
 - 下塗り後、壁が完全に乾いていない状態で仕上げ塗りをした場合
- など、クラックの原因にはいろいろありますので、クラック防止のためには、その原因を突き止めて根本的な対処が必要となります。

処理 …… 補修方法は31ページ

色ムラ 以下のような場合に、色ムラの出方が多くなります。

- 原因** …… ① 施工から乾燥するまでの気象条件(気温、湿度、風、日照)によるもの
- 冬季の太平洋側の乾燥シーズン
 - 冬季の日本海側の多湿シーズン
 - 強風下での外壁の施工
- ② 主として工期的な条件やその他によるもの
- 工期短縮のため、ジェットヒーター等で強制乾燥した場合
 - 部分的に激しい通気乾燥があった場合
 - 下塗材(NGU)が均一に乾燥していない面へ施工した場合(VCカット部分が未乾燥の場合も含む)
 - 施工後、コテムラを取るため、部分的にコテを当てた場合
 - 壁面にコテやチリボウキで水を付着させた場合
 - 中途半端なタイミングでコテ押さえやコテ返しをした場合
 - 施工下地面に吸水量のばらつきがある場合
 - 施工後の換気が不十分で、壁の湿潤状態が長かつづいた場合

処理 …… 全面塗り替え(31ページ参照)

白華現象

壁材の中で発生した水酸化カルシウムが壁材表面に移行し、空気中の炭酸ガスと反応して炭酸カルシウムを生成して仕上げ面に付着する現象を「白華現象」と呼びます。全体的に色が抜け、白っぽくなります。

原因 1 …… 施工後、壁材の湿潤状態が長かつづいた場合に『白華現象』が起きる場合があります。

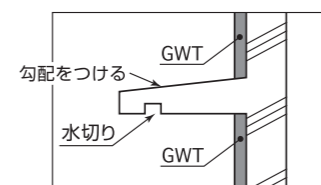
- 対策** …… ● 屋外施工の場合は、天候、気象状況に配慮した施工日の選定をしてください。
- 室内施工の場合は、仕上げ塗り後、4～5日間は現場の空気を入れ換え、室内の高湿度状態を緩和してください。
 - 厳寒期など低温環境下では施工した壁材の水分が蒸発しにくくなりますので、低温環境下での施工を避けていただくか、施工現場を全体的に暖めながら施工を行うと共に、朝夕には空気を入れ換えて多湿状況が続かないよう配慮してください。

処理 …… ● 屋外施工の場合=塩酸の10倍希釈液で白華部分を洗い、すぐに水洗いしてください。(収まらない場合=全面塗り替え→31ページ参照)

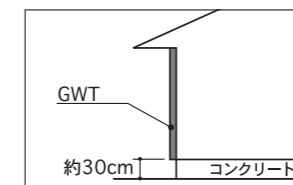
- 室内施工の場合=全面塗り替え→31ページ参照)

原因 2 …… 完全乾燥前に雨(水)がかかった場合に、『白華現象』が起きる場合があります。これを防ぐため、以下の点にご留意ください。

対策 …… ● 『ヒサン部分』は勾配をつけ、水切りをつけてください。(『笠木部分』も同様)



● 基礎部分は、地面から水を吸い上げないよう、目地や見切りをつけてください。



処理 …… 塩酸の10倍希釈液で白華部分を洗い、すぐに水洗いしてください。(収まらない場合=全面塗り替え→31ページ参照)